

失敗から学ぶ！ 介護現場 事故の 対応

ABC

(株) 安全な介護 代表 山田 滋

第8回

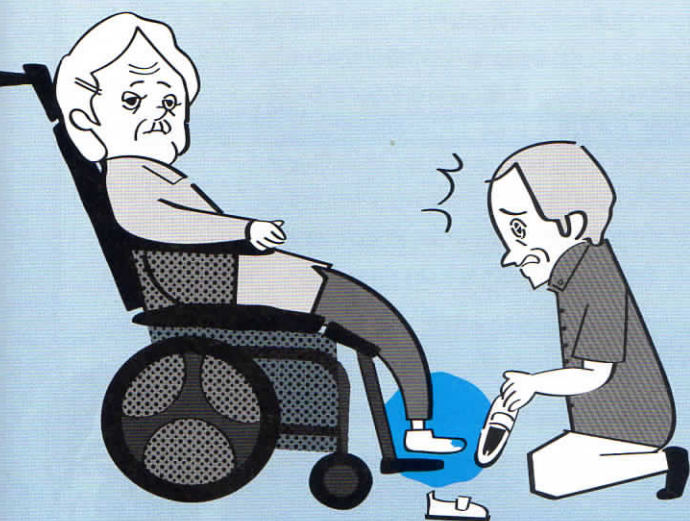
知らぬ間に入所者の足に傷 家族が虐待と誤解し苦情申し立て

特別養護老人ホームに入所しているAさん(95歳女性)は、要介護5で重度の認知症です。ある日面会に来た息子が、Aさんの足の爪を切ろうとしてリハビリシューズを脱がせると、右の靴下の半分近くが血に染まり、既に乾いていました。驚いた息子が看護師を呼んで靴下を脱がせてみると、右足の人さし指裏側の第一関節付近に横に切ったような約1cmの傷を発見。息子は「靴下とリハビリシューズを履いているのに、どうしてこんな場所に切り傷ができるのか?」と尋ねました。看護師は、「午前中の入浴時に何かで切ったのではないのでしょうか」と答えながら、すぐに手当をしました。

一方、入浴介助を行った介護職員は、「入浴後には、靴下を履く前に足の水分を取るため、タオルで丁寧に包

んでいます。入浴中にできた傷なら、タオルに血が付くので気付くはずです」と、入浴中の受傷を否定。翌日、息子は再度施設に来て、看護師とフロア主任に傷の原因について尋ねましたが、相変わらず「分かりません」の一点張りでした。

息子は施設長に面会を求め、「母はほとんど寝たきりで、自分で足に傷を付けることは考えられない。誰かがわざと切ったのだろう。虐待の疑いがあるから調べてほしい」と言い寄りました。施設長は驚き、「うちの施設に、故意に入所者を傷つけるような職員がいるわけがないでしょう。絶対に虐待はないです!」と断言しました。息子は納得せず、1週間後に国民健康保険団体連合会に苦情の申し立てを行いました。



イラスト◎ばばゆき

○入所者の状況:95歳女性 要介護5

■既往歴:脳梗塞、大腿骨骨折、糖尿病、認知症(重度)

■ADL:移動は車いす、移乗は2人介助、食事全介助、排泄はおむつ、入浴は機械浴

■服薬:認知症進行抑制薬、血糖降下剤、抗凝固剤

このコラムは、著者が実際に関わった事故の事例から、トラブルに発展したケースを紹介。豊富な現場経験を生かして対応の問題点を指摘し、どう対応すべきだったのか、事前にできるトラブル防止策について解説します。

その対応 どこが問題?

答えは次ページ以降▶